(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3827738号
(P3827738)
(45)発行日　平成18年9月27日(2006.9.27)　(24)登録日　平成18年7月14日(2006.7.14)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 313

請求項の数 2 (全 9 頁)

(21)出願番号　特願平5-116400
(22)出願日　平成5年4月19日(1993.4.19)
(65)公開番号　特開平6-304308
(43)公開日　平成6年11月1日(1994.11.1)
審査請求日　平成12年2月21日(2000.2.21)
審判番号　不服2002-13668(P2002-13668/J1)
審判請求日　平成14年7月19日(2002.7.19)
(31)優先権主張番号　特願平5-59507
(32)優先日　平成5年2月24日(1993.2.24)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(73)特許権者　000241234
豊丸産業株式会社
愛知県名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地
(74)代理人　100095278
弁理士　犬飼　達彦
(72)発明者　佐藤　文昭
名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地　豊丸産業株式会社内
(72)発明者　中垣　健一
名古屋市中村区長戸井町３丁目１２番地　豊丸産業株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】パチンコ機の入賞具

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
入賞口と排出口を有するパチンコ機の入賞具であって、前記入賞口から入った遊技球が誘導される誘導路と、該誘導路に連通する大旋回体と、該大旋回体内に複数の小旋回体を設け、前記大旋回体内に入った遊技球は、前記複数の小旋回体の何れかに誘導され、
前記それぞれの小旋回体には、小旋回体毎に異なる数の複数個の排出口が形成されていると共に、それぞれの小旋回体に形成の前記複数個の排出口の１個を大当たりとなる排出口にすることによって小旋回体毎に大当たりとなる確率を異にすることを特徴とするパチンコ機の入賞具。
【請求項２】
小旋回体の中心に尖塔体を設けることを特徴とする請求項１のパチンコ機の入賞具。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、パチンコ機の入賞具に関する。
【０００２】
【従来の技術】
従来の入賞具の部品分解図を示す図１４を参照して説明する。
５２は装飾体、５３は基体、５４は本体であって、入賞具は、本体５４に形成されている載置台５９に基体５３を挿入した後、装飾体５２を取り付けて組み立てる。装飾体５２の

上部には遊技球を導く傾斜路５５及びその端部には入賞口５６が形成されている。又、入賞口５６と連通して、誘導路５７ａ、誘導路５７ｂ、本体５４の奥に形成されている誘導路（図示せず）及び、基台５３ａの右端に設けられた誘導路５７ｃが各々直角状に且つ下り傾斜して設けられている。湾曲状の基台５３ａには旋回体６０が形成され、該旋回体６０内には3箇の排出口５８ａ、５８ｂ、５８ｃが穿設されていて、遊技球が特定の排出口に入った場合に大当り等の遊技者に利益を与えるように構成してある。即ち、入賞口５６から入った遊技球は、各誘導路５７ａ～５７ｃを経て、勢いよく流下して旋回体６０内で旋回を開始する。そして、遊技球の勢いが順次弱まって、排出口５８ａ、５８ｂ、５８ｃの何れかに入り、特定の排出口に入った時、大当り等の遊技者に利益を与えるように構成している。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

前記構成の入賞具においては、入賞口から流下してきた遊技球が旋回体内で旋回して、何れかの排出口に入ることにより遊技者の利益が決まる。その為、遊技者にとっては、単に、何れの排出口に入るかを見ながら遊技をするだけであり、変化に乏しく興趣をそがれる。又、遊技者は、旋回体内で旋回している遊技球が速度を落して、大当たりでない排出口に入ることを予測したときパチンコ機を殴打して、大当たりの排出口に入賞させようとしている。その為、予め設定した確率以上に、大当たりが出現して、パチンコ店の経営に影響を与えているし、パチンコ機の寿命にも悪影響を呈している。

そこで、本発明は、遊技者に、もっと興趣を向上させると共に、不正防止の入賞具を提供するものである。

【０００４】

【課題を解決するための手段】

請求項１の入賞具は、入賞口から入った遊技球が誘導される誘導路と、該誘導路に連通する大旋回体と、該大旋回体内に複数の小旋回体が設けてある。そして、大旋回体内に入った遊技球は、前記複数の小旋回体の何れかに誘導される。

又、それぞれの小旋回体には、小旋回体毎に異なる数の複数個の排出口が形成されている。そして、それら小旋回体に形成の前記複数個の排出口の１個を大当たりとなる排出口にすることによって小旋回体毎に大当たりとなる確率を異にする。

又、請求項２の入賞具は、小旋回体の中心に尖塔体を設けてある。

【０００５】

【作用】

請求項１の入賞具は、入賞口から入った遊技球は誘導路を通って大旋回体に導かれた後、複数個、設置の小旋回体の何れかに入る。そして、それぞれの小旋回体には異なる数の複数個の排出口が設けてあり、それぞれの小旋回体に形成の複数個の排出口の１個を大当たりとなる排出口にすることによって小旋回体毎に大当たりとなる確率を異にする。

そのため、遊技者にとって、先ず、何れの小旋回体に入るかに注目し、次にどの排出口に入るかに注視することとなり、興味を抱きながらゲームをすることができる。

請求項２の入賞具は、小旋回体内で旋回した後に回転が弱くなった遊技球が、何れの排出口にも入らず停止するのを防止するために、尖塔体を中心に設けることによって、遊技球を何れかの排出口に入ることを可能にする。

【０００６】

【実施例】

（実施例１）

図１は入賞具の正面図、図２は入賞具の平面図、図３は入賞具の部品分解図、図４は図１のＡ～Ａ矢視図、図５は図１のＢ～Ｂ矢視図、図６は図５のＣ～Ｃ矢視図である。

入賞具は、装飾体２、基体３及び本体４で構成され、本体４に基体３を挿入し、装飾体２を取り付けて組み立てる。装飾体２の頂部には、左右に傾斜樋１１ａ、１１ｂが形成され、その端部には入賞口１０ａ、１０ｂが設けられている。又、断面Ｕ字状の誘導路１２ａ、１２ｂは、前記入賞口１０ａ、１０ｂの下部から順次降下しながらＲ状に曲折して、左

右対称に各々設けられている。
基台３ａの中央部には円形の大旋回体１５が形成されていて、この大旋回体１５の周縁部１５ａは平坦に形成してもよいが、本実施例では遊技球の旋回をより円滑にするため傾斜（湾曲）状に形成してある。又、基台３ａの両端には、前記誘導路１２ａ、１２ｂに後続する誘導路１３ａ、１３ｂを、順次大旋回体１５に沿って下り傾斜に設け、前記大旋回体１５と連通する前側において遊技球を円滑に受け入れるため大旋回体１５とほぼ同平面で先細状に形成してある。大旋回体１５内には、３箇の円形の小旋回体１６、１７、１８が、平坦であってもよいが、より遊技球を円滑に旋回可能とするために湾曲状で遊技球が旋回可能な周縁部を有する大きさに形成してある。小旋回体１６には４個の排出口１６ａ～１６ｄが穿設されていると共に、湾曲状の中心に遊技球が停止して前記排出口１６ａ～１６ｄの何れにも入らないのを防止するために、中央に四角錐の尖塔体２０ａが立設してあって、遊技球は何れかの排出口１６ａ～１６ｄに入る。又、小旋回体１７には２個の排出口１７ａ、１７ｂが、更に、小旋回体１８には３個の排出口１８ａ、１８ｂ、１８ｃが各々穿設され、中央には尖塔体２０ａ、２０ｂ、２０ｃが各々立設されている。尚、前記尖塔体２０ａ～２０ｃは何れかの排出口に遊技球が入ればよいため、小旋回体に設けられる排出口の大きさ、穿設位置、数等によって必ずしも必要でない。又、前記各小旋回体１６、１７、１８に穿設されている排出口のうち、排出口１６ａ、１７ａ、１８ａを特定入賞口と定め、排出口１６ａの下部に設けた通路２２ａ、排出口１７ａの下部に設けた通路２２ｂ及び排出口１８ａの下部に設けた通路２２ｃは、共に共通通路２２に連通し、他の排出口からの遊技球と区別する。尚、本体４内部には、基体３を載置する載置台２６が形成され、外部の後部にはランプ２５が取り付けてある。

【０００７】
前記構成の入賞具の作用について説明すると、入賞口１０ａ或は入賞口１０ｂから入った遊技球は、誘導路１２ａ、１２ｂ及び誘導路１３ａ、１３ｂを流下し、大旋回体１５内に勢いよく転がり込んで、大旋回体１５の周縁部１５ａを右旋回、或は左旋回する。そして、遊技球の速度が遅くなると大旋回体１５の周縁部１５ａから離脱して、何れかの小旋回体１６、１７、１８内に転がり込む。遊技球は、小旋回体内で更に旋回を続行し、勢いがなくなった時点で何れかの排出口に入って、大当たりとなったか否かが判る。前記の例での大当たりの確率は、小旋回体１６に転がり込むことによって１／４、小旋回体１７に転がり込むことによって１／２、小旋回体１８に転がり込むことによって確率は１／３となる。尚、大当たりとなる排出口１６ａ、１７ａ、１８ａに入った遊技球は、通路２２ａ（２２ｂ、２２ｃ）から通路２２を経て、図示しない大当たり検知装置に導かれて、大当たりと判定される。尚、遊技球は、遊技球の汚れや入賞口に入るときの速度や大旋回体と小旋回体の汚れ等の種々の条件によって、入る小旋回体と大当たりとなる排出口に入るかが決まり、大当たりの確率は一定せず、ゲームの面白さをより向上させる。

【０００８】
前記した様に、大旋回体内に小旋回体を設けることによって、何れの小旋回体に入ったかによって、大当たりの確率を異にできるため、ゲームの趣向をより一層向上できる。尚、小旋回体の数、小旋回体に設ける排出口の数、排出口の間隔或は大当たりとする排出口の数等は適宜選定することができるし、更には、大旋回体や小旋回体の形状を円形とは異なる楕円等にしたり、誘導路を左右異なるように設けて遊技球の大旋回体内に入る速度を異にすることにより、より一層面白味がある入賞具とすることができる。又、尖塔体の形状も角錐体、円錐体、円柱状等、適宜選択形成することができる。

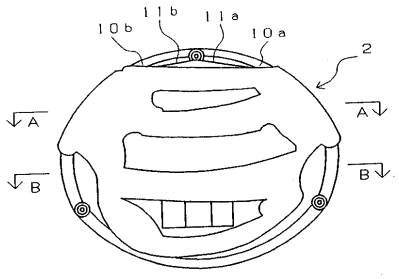
【０００９】
（実施例２）
本実施例を入賞具の部品分解図を示す図７、基体３の平面を示す図８を参照して説明する。尚、実施例１と同じ作用をなす部品には同じ符号を附して、詳細説明を省略する。
入賞具は、装飾体２、基体３及び本体４で構成され、本体４に基体３を挿入し、装飾体２を取り付けて組み立てる。装飾体２の頂部には、左右に傾斜樋１１ａ、１１ｂが形成され、その端部には入賞口１０ａ、１０ｂが設けられている。又、断面Ｕ字状の誘導路１２ａ

、１２ｂは、前記入賞口１０ａ、１０ｂの下部から順次降下しながらＲ状に曲折して、左右対称に各々設けられている。
基台３ａの中央部には、円形の小旋回体３０が形成されていて、この小旋回体３０の周縁部３０ａは平坦に形成してもよいが、本実施例では遊技球の旋回をより円滑にするため傾斜（湾曲）状に形成してある。又、基台３ａの両端には、前記誘導路１２ａ、１２ｂに後続する誘導路１３ａ、１３ｂを、順次小旋回体３０に沿って下り傾斜に設け、前記小旋回体３０と連通する前側において遊技球を円滑に受け入れるため小旋回体３０とほぼ同平面で先細状に形成してある。又、小旋回体３０内には３箇の排出口３１ａ～３１ｃが穿設されていて、何れかの排出口が大当たりとなっている。尚、本実施例では、実施例１と異なって、中央に四角錐の尖塔体を設けていないが、湾曲状の中心に遊技球が停止して前記排出口３１ａ～３１ｃの何れにも入らないのを防止するために尖塔体を設けることは有効である。又、前記小旋回体３０の外周には、円周体３３が、湾曲（或は傾斜）状でもよいが、ほぼ平坦に延設されていて、該円周体３３には遊技球の排出可能な大きさの排出孔３５（３５ａ、３５ｂ、３５ｃ）が等間隔に穿設されている。尚、排出孔３５は小旋回体３０の外周に沿う、長孔状に形成してもよい。
前記構成の入賞具において、入賞口１０ａ或は入賞口１０ｂから入った遊技球は、誘導路１２ａ、１２ｂ及び誘導路１３ａ、１３ｂを流下し、小旋回体３０内に勢いよく転がり込んで、小旋回体３０の周縁部３０ａを右旋回、或は左旋回する。そして、遊技球の速度が遅くなって何れかの排出口３１ａ～３１ｃに入るが、遊技者が大当たりの排出口に入らないと予測したとき、故意にパチンコ機を殴打することがある。かかる場合、遊技球は振動を受けて小旋回体３０の外周側へ転がって、排出孔３５（３５ａ、３５ｂ、３５ｃ）に入ることがあって、再び、小旋回体３０内に戻たないため、大当たりとはならない。その為、遊技者の不正を防止でき、パチンコ機の寿命を延ばすことができると共に、該パチンコ機の開発時に設定した大当たりの確率を確保することができる。
又、図９は、実施例１と同様に、大旋回体１５内に３個の小旋回体１６、１７、１８を配設した基体３の斜視図であって、該大旋回体１５の外側に円周体３３を設け、該円周体３３に排出孔３５ａ、３５ｂ、３５ｃを穿設したものである。この様に構成したとき、大旋回体１５に入った遊技球は、周縁部１５ａを旋回後、何れかの小旋回体１６、１７、１８内で旋回するが、遊技者がパチンコ機を殴打することによって振動を受けた遊技球は、前記円周体３３に設けられた排出孔３５ａ、３５ｂ、３５ｃに入ることによって、大当たりを得ることなく排出され、前記と同様の効果を得る。
【００１０】
（実施例３）
次に、他の入賞具の部品分解図を示す図１０、基体３の平面を示す図１１、図１１のＤ～Ｄ断面図を示す図１２を参照して説明する。尚、実施例１、２と同じ作用をなす部品には同じ符号を附して、詳細説明を省略する
基台３ａの中央部には円形の小旋回体３０が形成されていて、この小旋回体３０の周縁部３０ａは旋回をより円滑にするため傾斜（湾曲）状に形成してあり、小旋回体３０内には３箇の排出口３１ａ～３１ｃが穿設されている。小旋回体３０の下側には、小旋回体３０の排出口３１ａ～３１ｃからの遊技球を排出する通路４３ａ、４３ｂ、４３ｃと共に、遊技球の排出可能な大きさの排出孔３５が穿設された円周体３３が取り付けられている。一方、長孔の排出孔３７を穿設し、外周に歯型が形成されている回転体３６は、前記円周体３３の上部に設置され、小旋回体３０とほぼ同じ高さで、モータ３８の回転軸３８ａの回転をスプロケット３９に螺合して伝達されて、回転可能となっている（尚、モータ３８は断面視の図１２の位置と異なり、図１１に示すように小旋回体の後側に設置してある。）。回転体３６の外側には誘導路１３ａ、１３ｂに連通する遊技球の旋回路４２が傾斜状に形成されている。又、回転体３６上には前記旋回路４２の遊技球を小旋回体３０内に導く入口３６ａと、直接に排出孔３７に入るのを禁止する弓状の突起４０ａ、４０ｂが立設されている。
【００１１】

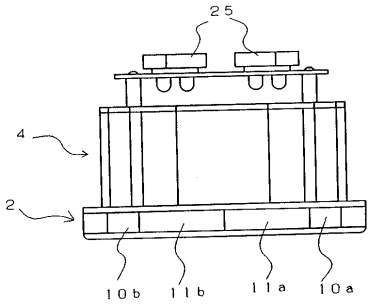
前記構成による遊技球の動きについて説明する。
回転体３６は、モータ３８によって反時計方向（図１１において）に常時回転していて、回転体３６に穿設された排出孔３７は、円周体３３に穿設された排出孔３５と重なりあったり、しなかったりする。入賞口１０ａ或は入賞口１０ｂから入った遊技球は、誘導路１２ａ、１２ｂ及び誘導路１３ａ、１３ｂを流下し、回転体３６に突設の弓状の突起４０ａ、４０ｂによって、旋回路４２を右或は左旋回する。尚、入口３６ａに直接入る場合がある。そして、遊技球の旋回力が減少すると、遊技球は、回転している回転体３６の入口３６ａに入り、該入口３６ａの位置によって、異なる位置から小旋回体３０内に入る。小旋回体３０内の遊技球は、何れかの排出口３１ａ～３１ｃから排出されるが、大当たりの排出口に入らないと予測したとき、遊技者が故意にパチンコ機を殴打することがある。かかる場合、遊技球は振動を受けて小旋回体３０の外側へ転がって、開口部３７ａを通って回転体３６の排出孔３７に入ることがある。そして、かかる場合には、回転している回転体３６の排出孔３７が円周体３３に穿設された排出孔３５と重なった時点で、遊技球は排出孔３５から排出される。その為、遊技球は小旋回体３０内に戻らず、大当たりとはならず、遊技者の不正を防止できると共に、大当たりの確率を維持することができるし、回転体３６の位置によって、遊技球が小旋回体３０内に入る位置が異なり、ゲームの興趣を増大させることができる。
又、図１３の基体の平面図は、図１１とは、回転体３６上に弓状の突起４０ｂを立設していない点を異にする。この入賞具において、誘導路１３ａ、１３ｂを流下した遊技球は、旋回路４２を右或は左旋回した後、或は直接に小旋回体３０に入る場合と、回転体３６に設けられている排出孔３７に入る場合がある。この様に、遊技球が、先ず第１段階として排出孔３７に入るか小旋回体３０に入るか、次に、小旋回体３０に入ったとき、大当たりの排出口に入るかが問題となるため、遊技者により一層の興趣を増加させる。又、前記と同様に、小旋回体３０内の遊技球が不正振動を受けたときには、排出孔３７に入る場合があり、かかるときには大当りとならず排出されて、不正を防止する。
尚、本実施例は小旋回体を有する入賞具に対しての例であるが、実施例１に示すように大旋回体内に小旋回体を有する様に構成してもよいし、回転体を円周体の下側に設置してもよい。
【００１２】
【発明の効果】
請求項１の入賞具は、それぞれの小旋回体には異なる数の複数個の排出口が設けてあり、それらの排出口の１個を大当たりとなる排出口にすることにより小旋回体毎に大当たりとなる確率を異にするので、先ず、遊技者にとって、何れの小旋回体に入るかを注目し、次にどの排出口に入るかを注視することとなり、興味を抱きながらゲームをすることができる。
請求項２の入賞具は、尖塔体を設けることによって、小旋回体内で旋回した後に回転が弱くなった遊技球を何れかの排出口に入ることを可能にする。
【図面の簡単な説明】
【図１】入賞具の正面図である。
【図２】入賞具の平面図である。
【図３】入賞具の部品分解図である。
【図４】図１のＡ～Ａ矢視図である。
【図５】図１のＢ～Ｂ矢視図である。
【図６】図５のＣ～Ｃ断面図である。
【図７】他の入賞具の部品分解図である。
【図８】図７に示す基体の平面を示す図である。
【図９】他の入賞具の基体を示す斜視図である。
【図１０】他の入賞具の部品分解図である。
【図１１】図１０の基体の平面図である。
【図１２】図１１のＤ～Ｄ断面図である。

【図１３】他の入賞具の基体の平面図である。
【図１４】従来の入賞具の部品分解図である。
【符号の説明】
２　装飾体
３　基体
４　本体
１０ａ、１０ｂ　入賞口
１２ａ、１２ｂ　誘導路
１３ａ、１３ｂ　誘導路
１５　大旋回体
１６、１７、１８　小旋回体
１６ａ～１６ｄ　排出口
１７ａ、１７ｂ　排出口
１８ａ～１８ｃ　排出口
２０ａ～２０ｃ　尖塔体
３０　小旋回体
３１ａ～３１ｃ　排出口
３３　円周体
３５（３５ａ、３５ｂ、３５ｃ）　排出孔
３６　回転体
３７　排出孔
４０ａ、４０ｂ　突起

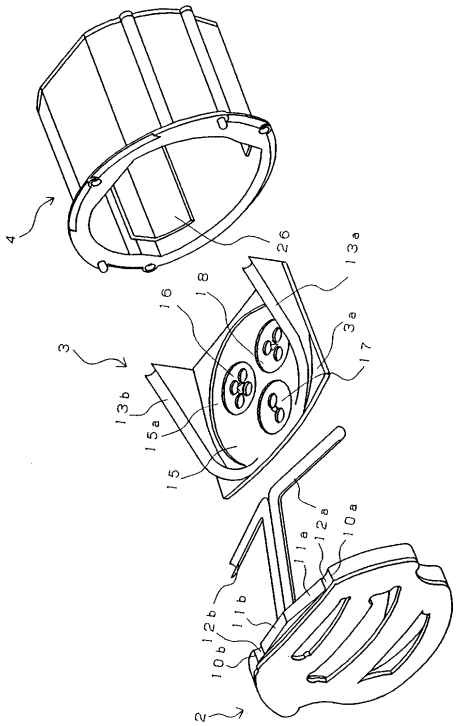
【図１】



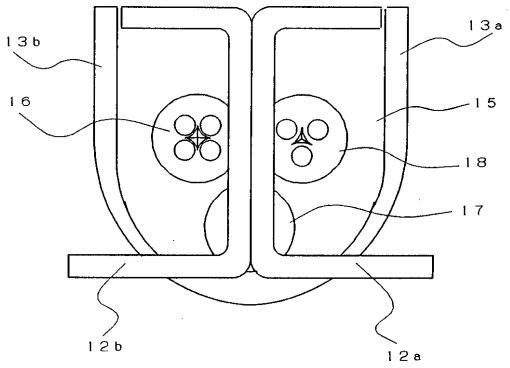
【図２】



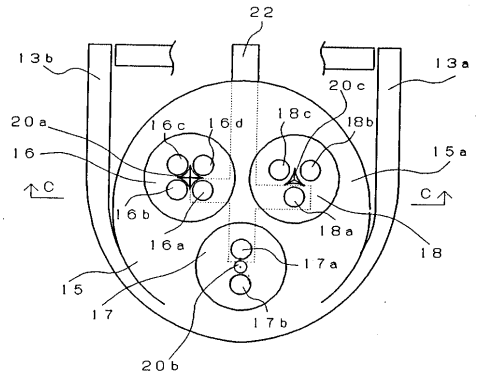
【図３】



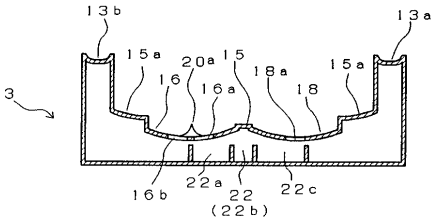
【図４】



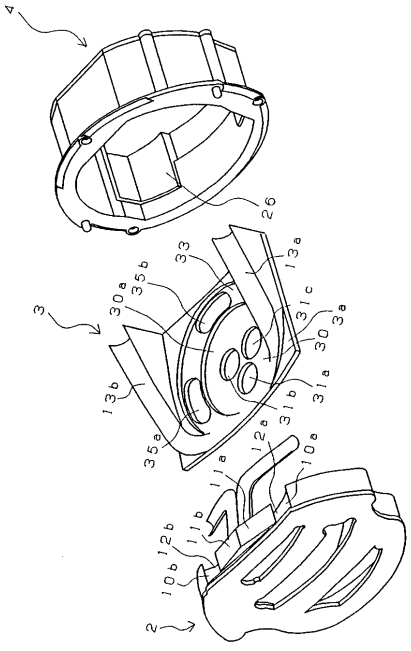
【図５】



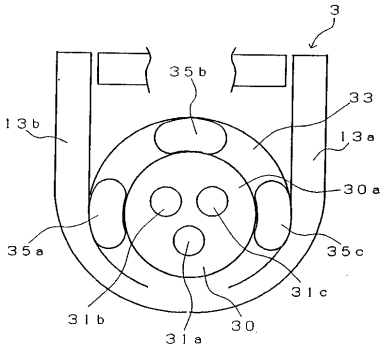
【図６】



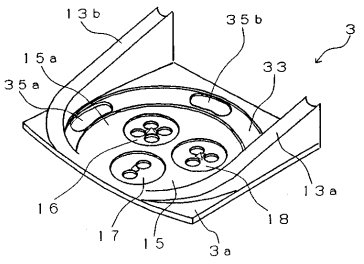
【図７】



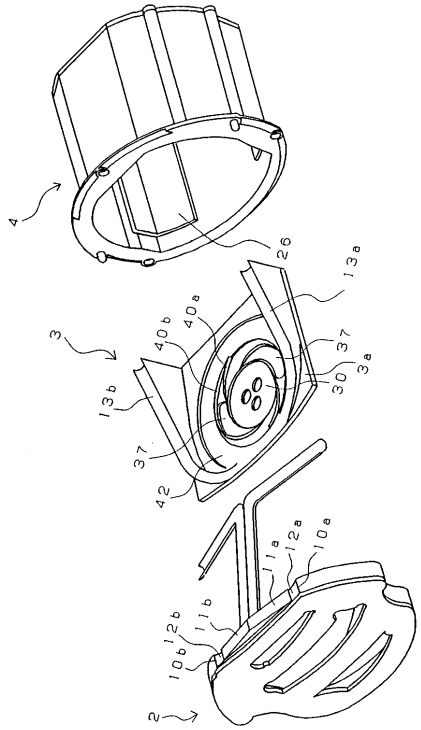
【図８】



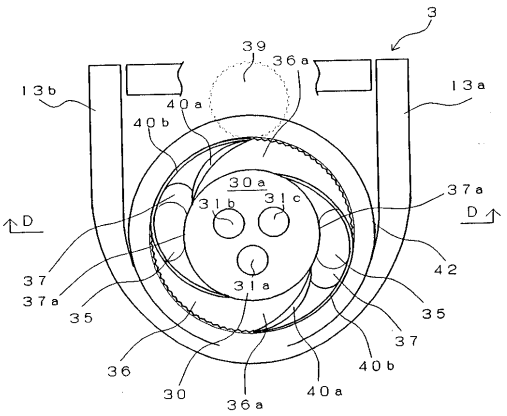
【図９】



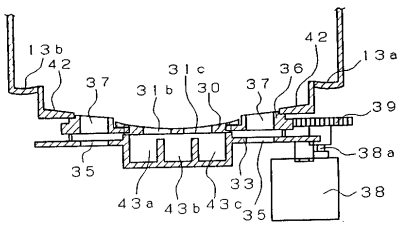
【図１０】



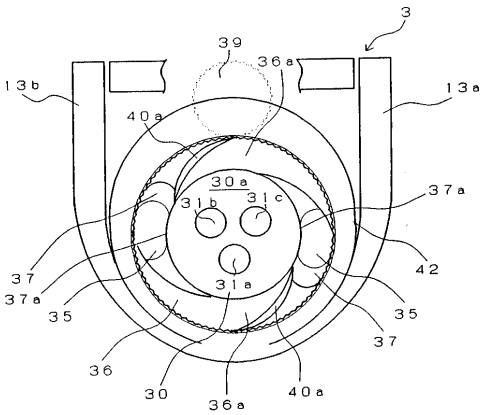
【図１１】



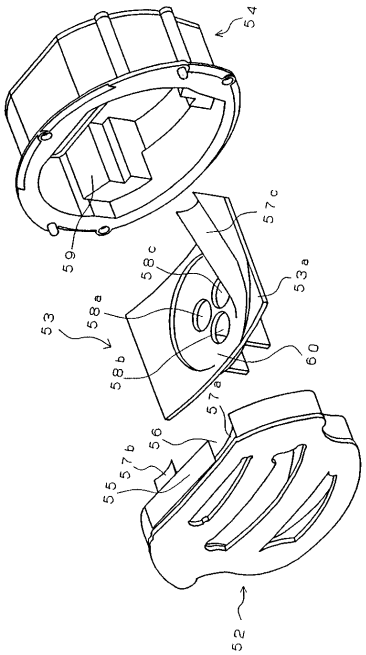
【図１２】



【図１３】



【図１４】



フロントページの続き

合議体
審判長　中村　和夫
審判官　渡部　葉子
審判官　川島　陵司

(56)参考文献　実開平１－１３３９８０（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
A63F 7/02 313